

武蔵野市第四期長期計画調整計画

# 行・財政分野市民会議

## 第5回

平成18年11月13日（月曜日）

武蔵野市総合体育館 3階 大会議室

午後 7 時 開会

## 1 開 会

○菊池 皆さん、こんばんは。定刻になりましたので、まだお見えになってない委員の方もいらっしゃると思いますが、始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 議 事

○菊池 きょうの会議の進め方ですけれども、前回、澤田さんからご提案いただきましたように、こうした形で意見をプロジェクターに表示しながら、リアルタイムで議論の中身を整理しながら進めようという試みでございます。澤田さん、よろしくお願いいたします。

まず最初に、こうした形で進めるに当たりまして、今、画面の方で示していただきましたけれども、前回ご提出いただいた各委員の方々の具体的なご提案を私なりにまとめてみたものでございます。澤田さんからいずれご提案があると思いますが、どんな形で進めるのか、それを決めてからということもあるんですが、いずれにしてもこの議論がたたき台になってくることは確かじゃないのかなということで、入力の手間を省くということもあって、私が勝手にこんな案をつくりました。それで、各委員の方々からご提案いただいたわけですけれども、私なりに、ある意味、乱暴なまとめ方をしてしまいました。つまり、手短かに書いてしまったものですから、各委員の方の一番言いたいところがずれて書いてあるようなことがあるかもしれません。その場合にはどうぞご遠慮なく訂正していただきたいと思います。

それでは、まず配布資料等のご説明を名古屋さんの方からお願いしたいと思います。

○名古屋財政課長 それでは、本日配布した資料といたしまして、まず第 1 に、邑上市長の施政方針ということで、平成 17 年 12 月 2 日のものをまとめていただいた、これは糸井さんからお送りいただいたものでございます。後ほど糸井さんの方から簡単にご説明をお願いいたします。

もう 1 つ、「ブレインストーミングの進め方」ということで、大橋さんから、ブレインストーミングの進め方の諸注意、基本的なルールについてご提案をいただきました。

以上 2 点で、それぞれ委員の方から簡単にご説明願えればと思います。よろしくお願いいたします。

○菊池 ありがとうございます。

それでは、糸井さんと大橋さんからご提出いただいた手元の資料につきまして、糸井さん、大橋さんの順序で簡単にご説明いただけますか。

○糸井 お配りした資料は2つの意味がありまして、1つは、行政に対して、体系図というものはこういうふうにまとめるんじゃないでしょうかという意味合いで、最初、山本さんが説明したのも、こういうように概念をきちっとしてまとめていただいたらよくわかるんじゃないかというのが1つ。

もう1つは、社会環境が大きく変わったから、長期計画の中で調整計画の見直しにしたって、見るべきものはあるだろう。つまり、新しい環境変化としてこれは見逃せませんねという意味で出しました。ここを見ていただくとおわかりのとおり、今までの長期計画の考え方とは違った提案がなされているわけですね。もちろん、これは大きな環境変化というのものもあるわけです。京都議定書の批准なんていうのはその最たるものですが、そういうもののために、例えば市内の気温を1度下げようなんていうのは、言ってしまえば簡単ですが、これをいざ、やるとなると、非常に大変ですよ。行財政の中に大きく影響してくる問題です。

もう1つ、例えば自分の交際費は削減しますよということは、全体の職員の待遇であるとか、あるいは経費であるとか、そういうものももう一回新しい考え方できちっと見直す必要がありますねという意味ですから、その辺は従来と変わってきている。当然、下の基本政策の中に書いてある5つの柱の中の4番目なんかは大きく変わってくるわけですから、その辺は調整計画であっても、新しい視点で見直す必要があるでしょうねという意味でお配りさせていただきました。

菊池先生が前に同じまとめをしていただいて、それはそれでよくわかるんですけども、もう一步入った、つまり我々が行・財政分科会として議論すべき内容として検討する中身について、こういうものは欠かせませんねということでお示しました。

以上です。

○菊池 ありがとうございます。

それでは、大橋さんの方から。

○大橋 今回はブレインストーミングのやり方で議論を進めていくということで、まことに僭越ながら、進め方の確認だけしておいた方がいいと思ひまして、お出しをさせていただきました。9項目なんで、読んでいきたいと思ひます。

行政の問題と財政の問題は別々にやった方がいいんじゃないかというのが私のアイ

デアです。

2番目、中期計画のこの項目について、こんなふうに変更したらいいとか、この項目は削除するとか、もしくは新たにこの項目を提案するという具体的な表現で発言をした方がいい。

3番目ですが、順番に回るんですね。右でも左でもよろしいんです。これは決めていただいて、順番に発言する。

発言は1回に1つだけ、1つのアイデアだけ。2つ、3つは言わない。言いたくても、次回まで待つということでございます。

5番目ですが、アイデアがなくなったらパスします。順番が来て「パス」。また次のときまでにアイデアが出たら、それを言うといったことです。

6番目、ほかの人のアイデアに便乗して新たなアイデアを出すのは全然オーケーです。ここはBSの1つのいいところですね。

7番目です。ほかの人の発言に対する批判は厳禁です。「それはないよ」とか、それはなしですね。すべてオーケーということです。削るのは後で結構ですから。

8番目もそうですね。実現可能性は考えないで、どんどんアイデアを出す。何でもいいから言う。可能性を考えると規制してしまいますので。

ここは今日までにやってきてほしかったんですが、ご自分のアイデアをメモで持ってきていただくと、出しやすいことがあったんですけれども、多分大丈夫だと思います。こんなやり方を最低のルールとして進めたらよろしいかと思いますが、何か質問ありますか。

○田中 2番の「中期計画のこの項目について」というのは、具体的にどのことを示されているのかということと、私自身は余りそれがない方がいいのかなと思っていました、そうしないとブレインがストームしないと思いますので。

○大橋 「この項目」と言ったのは、私の中では、集中改革プランのいろんな項目がありますよね。でもいいですし、フリーでもよろしいと思いますが。そこは議長、いかがでしょうか。

○菊池 そうですね。この2番は、大橋さんがここに書かれたのは、ブレインストーミングして煮詰まっていた最終段階で、じゃ、我々の目の前にしている中期計画のここは修正だね、ここはカットだねとか、ここは新たに加える部分だねとか、最後にのりづけしていくところがこれなのかな。だから、今、田中さんがおっしゃったような、それもわかるんですね。だから、これは最後に残しておいたらいかがでしょうか。最後のところでうま

く張りつけていく。ブレインストーミングはブレインストーミングでどんどん進める。

大橋さん、大変わかりやすいまとめでありありがとうございます。大橋さんと糸井さんのご提案に関して、特にございませんでしょうか。

○酒井 1番の行政と財政を別々にアイデアを出し合うというのがちょっと。勉強不足なので、基本的に私、何も実現可能性を考えずにどんどんアイデアを出すという方に結構依頼してしまったので、分けられてしまうと、どっちのことを私はアイデアを出したのかというのが自分でわからない。それは出した時点で、それこそ澤田さんが振り分けてくださるというか、そういうことでもいいですか。

○菊池 そういうこともあり得るでしょうね。というのは、大体ここで行政といった場合には、事務事業の見直しだとか組織の見直しだとか、そういったことに比重がかかると思うんですね。財政といった場合には、この前もちょっと出たように、財源確保をどうするかとか、ちょっと税の方に重きを置いた。だから、どっちにしても両方に関わる人が多いですから、あとで皆さんで整理していけばよろしいんじゃないでしょうか。

○島田 関連なんですけれども、前回のときに非常にいいデータを出していただいて、自治体の行政改革度比較というのを出していただきましたね。例えばこういうのをやりましょうよというのは、今の1番でいくと、どっちに入るんでしょうか。

○菊池 中身によりますね。

○島田 ですから、まずこういうものをはっきりさせて取り組みましょうよというのがあってもいいのかなと思うんですけど。それを行政だ、財政だと言っちゃうと、どっちかなと。

○菊池 最初はどんどん出していただいて、後で整理すればいいんじゃないでしょうか。

○島田 ということで、余り行政だ、財政だと言っていたかかないほうが、発言はしやすいなど。

○菊池 それでは、作業を進めていただける澤田さんの方からご提案なり、やり方について何かありましたら。

○澤田 私は実はいろいろアイデアがあるんですけども、今回はあえて白紙です。ソフトも選んでいません。こういう状態から、じゃ、こういうふうにやっていこうかというところで、なるべく手短かに。最初、エクセルで始めるというのはどうでしょうか。単純にどんどんつけていくということですね。例えば今、大橋さんの方から言った方法だと、変更する、削除する、項目を提案するという感じで書いていますけれども、いい点と悪い点と

どうか、ポジティブな点を右に、やめろというのは左にとかいう感じでどうですか。

○大橋 加工はしやすいかもしれませんね。よろしいんじゃないでしょうか。

○澤田 右はよい点ととする。また、よい点というのも、ちょっと言葉がどうか、それはまた後で修正するとして。左はやめてほしい悪い点ではどうでしょうか。

○大橋 そこは分けしなない方がいいと思っているんですけど。

○澤田 でも、どこかで何か引かないと。

○糸井 島田さんが言われた、つまり政策的なレベル、施策的なレベル、それから具体的な作業レベル、もっと基本的な方針とか哲学とか理念とか、そういうレベル、いろいろレベルがあると思うんですね。それに対していい点、悪い点、まあ横軸と縦軸というのかな、その辺を多少議論しないと、すべての領域でいいですと。そうすると、後で整理をするという必要性が出てきますよね。だから、その辺を入れるのかどうかも最初に議論しておいた方がいいかなと思いますけど。

○大橋 それは今表示されているエクセルのC列やE列のところを使って、属性は後でつけられればよろしいんじゃないですか。

と思いますけど、いかがでしょうか。

○藤本 ちょっと1つ質問なんですけれども、よろしいですか。今まで出していただいた、例えば日本経済新聞の自治体の行政革新度調査、各項目がありますよね。これなんか、なかなかいいなど。財政改革を推進するための基本方針の中でこれはいいなどか、そういったものは、ここで1つ1つ発言していくわけですか。

○澤田 やはり大項目、中項目、小項目と分かれると思うんですよ。先ほど糸井さんがおっしゃったように、具体的な、一番大きな範疇に入るもの、例えば予算を削減した方がいいとかいうものは、多分ネガティブの方の大項目なんですよ。その中のさらに具体的なものは中項目に入る。さらにもっと具体的な、あれをやりなさいとか……。

○藤本 どちらかという、中項目、小項目が先に出てきて、後でくくるという形になるでしょう。

○澤田 それは並行して書けますので。後で、じゃ、これはここに分類されますねと皆さんの合意が得られれば、そこでそのように仕分ける。

○藤本 なるほど。例えば自治体の行政革新度の中で、オンブズマン制度というのはいいですねと、こういう……。

○澤田 そうすると、こっちのポジティブのオンブズマンに入るんですね。

○藤本 オンブズマンと出ますね。そのほかにもたくさんあった場合に、1人1人ぐるぐる回っているのもどうかと思いますので、せっかく出てきたアイデアをまず先にピックアップしちゃった方が早いのではないかと思います。

○酒井 いや、そうすると平等に意見を言うという意味においてと、あと……。

○糸井 それも回してやれば。パスはパスで。

○藤本 はい、わかりました。

○酒井 そうそう。だから、まず最初に一巡してみたときの様子でもう一回という感じもいいんですか。

○糸井 大橋さんの考えは、公平にやる必要性から、順繰りにどんどん回して、ない人はパスで、そのまま早く回れば、なくなった時点でその次のテーマにいけますという意味なんだから、意見のある人とない人がそこですぐはっきりするから、なければその次のテーマに行くというだけです。そうでしょう、大橋さん。

○大橋 テーマというか、行財政で1つのテーマですから。

○糸井 失礼、テーマじゃなくて意見が出るか出ないかの話ですよ。

○大橋 まあ、やってみませんか。

○菊池 どうなんでしょうか。前回から具体的な提案がどんどん出始めまして、これで今日あたりから議論が活発に進むかなと期待しているんですけども。そこで、私が予想していたのでは、前回出たように、各メンバーが持っていらっしゃる提案をどんどん出していただく。そして、それに対して付随の議論があればどんどんしてもらおう。こうやって、この議論はここにつながりますねとか、そういうふうに行くのかなと私は思っているんですけども、そういう形で一巡してみてどうなんでしょうか。

○酒井 でも、そうすると時間が……。

○糸井 だから、言いたいことをどんどん順番に言っていったらいいですよ。

○菊池 だから、1人1つですね。

○酒井 そうですね。それで、2時間という制約が決まっているので、例えば前半の1時間でアイデアを出し合うとか、あと何十分でディスカッションする、その中でまたみんなこれについてきちんと議論したいとかいうのを、それこそ（決めたらいいんじゃないですか）……。

○菊池 まずは一巡しましょう。

○酒井 はい、そうですね。だから、何分間でやるとか決めておかないと、またエンドレ

ス状態になってしまうのではないですか。

○菊池 それでは、そんなことでよろしいでしょうか。では、前回具体的なご提案をいただいた方もいらっしゃるので、その方も含めて回っていただきますけれども、前回の議論につけ加える、そういうご意見でもよろしいかと思えます。それから、新たに初めて提案される方もいらっしゃると思うんですけれども、そういったことにこだわらずに、とにかくぐるっと回ってみたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、大橋さんのご提案どおり、時計回りで順番にということで行きたいと思えます。糸井さんからということになりますか。

○糸井 空いた土地を事業収益できるように活用する。

○菊池 前回のにつながっていますね。

○糸井 いやいや、もうこれはブレインストーミングとして意見をどんどん出すんですよ。

○内山 行政評価の手法を一步進めて、新規事業についての行政評価システムを第三者も交えて確立する。

○澤田 どこに入れますか。

○田中 入れるところを考えていくと時間がかかっちゃうと思うので、とにかくすすめていきませんか。

○内山 区分けは後回しで。

○大橋 自治基本条例制定の前倒し。

○小美濃 私は、前回出させていただきましたけれども、私も営業育ちなので、収入を増やす方を重点的に。税を増やさないで収入を増やす方法を検討する。

○小池 私も自治基本条例について、前倒しするかどうかわかりませんが、早急にそれに対して検討する。私は考え方としてはあるべきだと思っているんですけれども、どういうふうになるかわかりませんが、早急にそれに対して集中的に検討する機会をつくる。

○小島 私は、ずっと言っていることなんですが、行財政集中改革プランというのが基本的にあるわけですから、その中で市民としてフレッシュな目で現実の新事業をどういうふうにするか、何を優先すべきか、意見、またスクラップすべき事業は何であるかと基本的なことを我々が勉強しながら、まだ勉強を全くしておりませんので、勉強しながら意見を言うというところに焦点を当てていただきたいなと思えます。やり方のことでまだこだわっているんですけど。



会社でもそうですけれども、ブレインストーミングというのは、自分で何か意見を言うブレインストーミングはまた1つあるんですが、限られた時間ですから、まずは勉強しながら、何が一体この事業に必要なのかという基本的なことを会社の中で社員とともに一緒に考えていくということと同じことだと思うんです。結局、経営者と社員が意思統一するためにやっている会議でして、それが市民と市長の意思統一というか、あるいは協働作業というか、いいアイデアとかいう場所を設けるためにこの市民会議があるんじゃないかなと思っているんですけどね。基本的な改革プランはあるわけですから。

この間先生が言ったように、それに踏み出して我々がああだ、こうだ言っても、下手するとガス抜き場になってしまうという大変悲しいお話があったんですが、我々は情熱を傾けて、一体何を優先して何をスクラップすべきだということを基本的に考えながら、予算がどうあるべきか、あるいは夢はどう持つべきかということを、みんながそれぞれいろいろ今おっしゃっていることも、みんなそこに入ってくると思います。ちょっと申しわけないんですけど、1つのアイデアなんですけど。

○糸井 これは時間を置かないでどんどん回すというのが大事なんでしょう。

○小島 まずは回してください。

○酒井 公共施設の建て直しの経費概算の公表と、それに対するパブリックコメントの実施。今後、20～30年経過している建物の建て直しがあるというのは大分前からわかっているのに対して、それにかかる経費の概算を公表することと、それに対するパブリックコメントの実施。

○菊池 澤田さんは作業中ですので飛ばして、島田さん。

○島田 ちょっと異質なんですけど、皆さんは当然あるし、今の中長期計画というのがそういうことでできているんだと思うんですけども、やはり武蔵野が将来とも成り立つというのかな、人が住みたいと思うまち、住みたいまちランキングなんていろいろあるんですけど、まちをどういうふうにしたらいいのかなということで、そこの勉強をまずしたいというか、していただけないかな。それは先ほど言われた話と通じるんですけども、収入をいかに増やすかというのも1つだと思っています。

○須藤 私もこの間申し上げたんですけども、立派な項目ができるんですけども、その項目を実行するに当たって、意識改革をいかに徹底して各自が認識できるか、これを申し上げたいと思っています。

○高木 酒井さんと同じで、例えば10年なら10年のスパンでどうしても必要となる大型

の経費というものを最大限明確にしたい。その上で、かつ行財政改革検討委員会の財政見直しを必ずしも前提にしない。というのは、要するに集中改革プランなどはどっちかというと私に言わせれば国や都の行政側からの発想で、今後の行政改革の発想であるわけですから、私たちが求める優先順位とはまた違うんじゃないかという気がしているので。今予定されている大型投資も含めてここで見直して、優先順位というものを市民の目で見直したい。この前から出ています、藤本さんのお話にもあるように、全体としてどうしてもかかるお金はこれだけなんだ、というのをまず把握し、そうは言っても千川小学校や大野田小学校みたいなものと同じようなレベルで建て直しをしなければならぬとも全然思っていないんですが。これだけかかると言った上で、残ったお金はじゃ何をするのかということについて、単に儉約というだけじゃなくて、先ほど皆さんがおっしゃったように、住みたいとか、住み続けられるとかいう目を見た場合に、何にお金を使うべきなのかという議論をきちんとしたい。

○高橋 私は、できたらですけれども、武蔵野市は固定資産税が非常に高いので、固定資産税の算定基準をもう少し緩和できないのか。あと、固定資産税の評価の仕方が非常にわかりにくいので、その辺をはっきり市民にわかるようにしてほしいと思います。その説明も、ぜひ行政にしてほしいと思います。

○田中 皆さん、陪審員制とか裁判員制度ってご存じかと思うんですけれども、そのような広範な市民の参加を促すような制度。陪審員とか裁判員制度のような感じで、手を挙げた人たちだけがなるんじゃなくて、全員ができるよという発想ですね。

○長屋 すべてお金の裏づけということで、公会計システムの確立。いろいろつくってはおられるんですが、複式簿記とか発生主義とか、いろいろ言われていますけれども、民間企業のような、例えば減価償却とか、そういうものを入れた公会計システムを早急につくっていただきたいということです。

○西村 とりあえず1つ。この集中プランの中に施設の指定管理者制度の導入がかなり積極的に書かれているんですけれども、何が指定管理者制度になじみ、何がなじまないというか、はっきり言えば、指定管理者制度になじまないものをきちっと検討したいです。例えば図書館などは、私は指定管理者制度になじまないと思うんですけれども、そういったことをみんなの目で検討したい。

○藤本 私は、「行財政改革を推進するための基本方針」の10ページにあります、中長期資産管理計画の作成と、それからもう1つは市債管理計画の作成、これはぜひやっていた

だきたい。

○松村 市場化テストも含めて、徹底した事務事業の見直しをやる必要があるんじゃないかと思います。それとともに、20何年間という長い政権があったものだから、財政援助の出資団体とか補助金団体とかいうのもきちんとゼロベースで見直すことをやりたいなと思います。

○三上 実はNPOの人に、市に何をしてほしいかということ聞いたんですけども、答えが返ってきませんで、どうも行政との協働というのが武蔵野ではイメージができてないみたいなんで、その辺をどうにかしたいというのがあります。先ほどから伺っている指定管理者制度ですとか陪審員制度みたいな、とにかく市民が参加する制度、そういうものとも関係してくるかと思います。

○宮本 私、実は自分で配ろうと思って勝手に資料をつくってきて、要は財政の方で、今日、たまたま出してきたのは、昭和40年からの国債の残高の一覧表と、そのときの株価とか公定歩合の変動の表と、それからあと、東京の各市の決算状況というのを手に入れたんです。私は最初から言っているんですけども、人件費の削減と新規の大きい建物に対する投資というか、新規市債の発行停止というか、そうなるかならないかは別にしても、そのくらいにして財政を締めないと、今話しましたように、国債の残高が777兆ある上に、市債の負債が乗っかるわけですから、そういう中で我々は検討しないと、我々の市の中だけの検討をしていっちゃうと、とんでもない負債を未来世代に残すということで、それを検討していきたいと思います。

○安田 今度の調整計画で財務計画を立てるには、積み上げ方式ではなくて、最終年度の目標数値を設定しろ。目標数値というのはいろいろありますよね。目標数値を設定して、それを達成するように、逆に現在からつくる。市債から何から、残高とか、全部入りますからね。

○菊池 とりあえず一巡したわけですが、ここで今まで出た中で、前回の話とつなげてお話をくださった方もいらっしゃいます。そこで、前回のところで、市側から補足説明をしてもらった方が、むだな議論をしなくてよろしいかなという点が2つあります。きょう、特に出てこなかったんですけども、経済特区、これは糸井さんから出ておりましたけれども、経済特区の活用ということがありました。それから、宮本さんからですか、緊急時対応策、市役所の職員の方が緊急時にどれだけ早く駆けつけられるか、そういった話が出たんですが、これについて、市の側から、今までの取り組みの状況とか、ご存じの

ことがありましたら、経過をお話しただければと思います。

○高橋財務部長 私の方から簡単にご説明させていただきます。

補足になるかどうか、ちょっとあれですけれども、宮本委員さんの方からお出しいただいた緊急時対応の方策ということで、市の職員が市内に余り住んでないというお話がございました。確かに武蔵野市の職員の3割に満たないくらいの数の職員しか市内にいないというのは事実でございます。ただ、それに対応しまして、災害時になるべく多くの職員がすぐ市役所に駆けつけられるように、あるいは緊急時の初期対応で各学校に駆けつけるという体制もとっておりますので、従来から職員住宅を市内につくりまして、そこに独身の職員、それから家庭を持っている職員が入るという施策をやってきました。また、隣の緑町公団の中に管理職が泊まれる部屋を2部屋確保しまして、そこに1週間交代で泊まり込むということもやっています。

今、西棟で増築しています防災・安全センターの中に、職員が交代で泊まり込む部屋をつくっているということもご承知おきいただければと思います。それをやっても、市内在住職員がどれだけ増えるかというのはありますが、そういう取り組みをしています。

もう1点、経済特区ですが、これにつきましては、市の方でも従来からなるべく色々なアイデアを出し合って、特区に手を挙げようじゃないかということもやってきましたが、もともとの政府の発想が規制緩和なんですね、経済特区という考え方は。要するにさまざまな経済上の規制を緩和して、例えば民間の力を導入しよう、あるいは従来行政が縛ってきたものを緩和しよう、そういうやり方なものですから、市域が狭く、しかも住宅都市である武蔵野市の中で、規制を緩和して導入するというものが余りないということもございました。例えば姉妹友好都市の遠野市などはどぶろく特区というのをやっているんですけども、武蔵野市でどぶろくをつくるだとか、これは極端な例ですけども、そういうことはなかなかできないということもございますし、あと、従来から……。(糸井委員「うど特区にすればいい」と呼ぶ) そうですね。

それからあと、例えばテンミリオンハウスですとか0123施設のように法律の規制がかかっているものを、逆に法律の網を抜けるという言い方ですとちょっと語弊があるんですが、さまざまな工夫で先取りをした取り組みもございましたので、構造改革特区に手を挙げてはいないわけですが、そういう工夫はさまざま取り組んできたというふうに考えています。

ただ、私もまだ不足しているなど感じるのは、福祉関係の特区に対して今さまざまな形で全国的に手を挙げているところがありますが、その辺については今後の検討課題かなと

思っています。

補足になったかどうかわかりませんが、私の方からは以上です。

○宮本 今の非常の場合の、私がいただいた資料では、15キロ以上に住んでいる方がかなりいらっしゃるんですね。そうすると、この前1月に非常呼集って、1月は寒い日ですから、歩くと暖かくてちょうどいいんですけれども、真夏に15キロ歩いたら、私も1年間高尾山に登り続けましたけれども、夏は汗かいて死にます、15キロも歩いたら。それで来て、仕事して、またうちへ帰るなんて、そんなことは絶対できません。1日できても、2日、3日……。だから、そういうことを皆さんにもう一度ご理解しておいていただきたいと思っています。

5キロだったら、水を1本持って歩いて、汗かいて、着けるけど、10キロだともうそれだけでくたばります。ですから、真冬に練習しても意味ないので、今度は、いじわるですけど、真夏のお盆のときに試しに練習されたら、もっと実感がわくと思います。それだけです。

○菊池 もとに戻しましょう。

○澤田 私はまだ言ってないので、言わせてください。

私は、ここに1票投じるのと、それからここに1票投じる。この2つです。言葉で言うと、優先順位決めをする。つまり、何をやっていくのかということをはっきり皆さんで決めましょう。それを市民に対して提示しましょう。

○糸井 その前に、ブレインストーミングでやりましょうと言ったんだから、ブレインストーミングの一番のねらいは、まずアイデアをできるだけたくさん出しましょうというのが一番のみそだから、こういう形でやったんだから、とにかく説明は必要ないんですよ、ここには。まず間髪を置かずに回して、アイデアのなくなった人はどんどんパスして、そして終わったところで終わりですよ、とりあえずは。そして、この次に行けばいいんですよ、番号をつけましょうとか。

○澤田 皆さんは一言言ったのに、私は言ってなかったんですよ。

○糸井 だって、あなたはまとめるんだから、そんな時間はないでしょう。

○澤田 私もワン・オブ・ゼムですから。

○糸井 2巡目に入りましょうよ。3巡目もどんどんあるんだから。

○長屋 ちょっとよろしいですか。私のいった公会計というのは言葉足らずで、公会計制度の改革。

○名古屋財政課長 ちょっとよろしいですか、事務的なことです。皆さん、今速記をやっているもので、発言する前に、申しわけないんですが、ご自分のお名前を一言添えていただくようお願いします。

○菊池 それでは、2巡目に入ります。それで、今まで出た意見は澤田さんは記入してくれて、こうなっています。これにつけ加えるような議論をどんどん出していただきたいと思います。

○澤田 一回これをここで整理しませんか。私、ベタ打ちしただけですから。

○菊池 整理というのはどういう意味ですか。

○澤田 この中で、ここが違う、これとこれは2つにできますねと。

○菊池 提案者の意図がね。

○澤田 1周したら1回整理して、もう1周という感じでやっていかないと。

○田中 2巡目の冒頭でそれは修正していただいたらどうですか。

○菊池 そうそう、2周目の冒頭で本人から指摘してもらえばいいんじゃないですか。

○糸井 それはアイデアとして出るんですよ、整理も含めて。

○澤田 はい、わかりました。そういうことであれば。

○菊池 それから、一言だけ。小島さんが先ほど、集中プランを中心に中身を勉強しながらやりたい、やるのがいいんじゃないかとおっしゃっていましたが、それはよくわかるんです。そこで、これを議論していく中で、この話は集中プランのここにありますねとか、そういう形でつながっていくんじゃないかと私は思うんですけど。

○小島 ブレーンストーミングはブレーンストーミングでいいと思うんですよ。これは何でも自由なことを、庶民の声を言う、この時間はこれでいいと思うんです。もう1つ、それをまとめていかないと。

○菊池 それは当然やらなきゃいけない。それはそうです。

じゃ、どうぞ、糸井さんからまた。

○糸井 副市長制度の導入。

○菊池 説明しますと、今、制度が変わりまして、収入役とか助役とかにかえて、副市長を置くことができることになったんです。

○糸井 だから、そんな説明も要らないんですよ。どんどん回せばいいんですよ。アイデアをたくさん出すのに。

○内山 済みません、上から2番目のところは、「新規事業への行政評価の活用」というふ

うにさせていただきますか。

新たな提案は、市民活動・NPO支援基金の創設。それは――今説明しちゃいけないのね。

○糸井 そうそう。(笑)

○大橋 市民協働情報センターの早期設置。仮称です。

○小美濃 支出の中で、人件費関連ですね、特にそれについて、三鷹市が非常にいろんな行政指数も高い。武蔵野よりもはるかに高い。一応これは参考にしてもいいんじゃないかということで、例えば三鷹市は人口が約17万ですね。武蔵野市13万2000。仮に三鷹を1とすると、武蔵野は0.82%の人口しかいないということで、例えば職員定数なんか、三鷹市と武蔵野市の比率でやってみますと、今の段階で比率を適用すると、武蔵野市は873人でいいことになるわけですね。約252人多いんです。

それからあと、議員定数の方も、三鷹は28人で武蔵野市は30人ですね。人口比で、三鷹が一万分の16.16で、武蔵野市は1万分の22.7ですね。それでいきますと、議員の定数もこの間の試算でいくと約8人多い。22人でいいんじゃないか。そういったことですね。

それと、職員給与も1人当たり813万でいくと、約1500万くらい値上げになりますね。職員退職金も1人当たり2700万とかある。民間では2000万くらいじゃないかなと思ったんで、そういったものも全部加算していくと、1年間約68億4000万くらい、これはすぐできるという数字じゃないかもしれませんが、1つの目安として考えられるんじゃないかということで、三鷹市役所の現状と対比していくのも必要かなと思いました。

○小池 固定資産税の軽減というところと根っこは一緒なんですけれども、具体的に固定資産税の土地の評価額とか、そういうのがどういう基準で行われているのかということで、ほかの市町村と比べて武蔵野市が実質以上に高い評価をされている部分がありますので、そういうものを見直しというか、評価委員さんがどういう形でやっているのかとか、その辺の再検討が必要じゃないかと思っています。

○小島 これはアイデアと言えるかわからないんですが、膨大な事業計画を推進し、市のためにいろいろ働いていただくのは、結局公務員の方、市長の職員の方とともに、あらゆる公務員の方が本当に活性化されて生き生きとやっていただかないと、企業と同じことであって、実際にそれが本当によくなることによって、市民も豊かに、またサービスも受けられるということだと私は思いますので、事業を推進する中心になるのは人です。

結局、職員の方が、一般企業のように年功序列の廃止とか申告制度とか能力給とか、そ

うということがどれだけ公務員の世界で今議論され、あるいは検討され、推進されていくのかわかりません。わかりませんが、私は事業を基本的に考えると、人間の、働く人の活性化ということをどれだけ、私どもは何かそれに突っ込んで検討したり、それを模索したりするわけではなくて、我々の意見としてそういうものを出していきたいなと思います。

○酒井 武蔵野地域自由大学の内容の見直し。カリキュラムと、あと土日開校とか昼夜間開校とか。

○島田 ちょっと違う観点で、行政の評価の仕方、さっきちょっとお話があったかもしれませんが、端的にいうと、行革プランにあるようなこういう計画は、私は計画ではないと思います。もっと実行できる計画を立案し、評価していただきたい。実行をちゃんとしていただきたい。端的にいいますと、5年間全部検討と書いてある計画があるんです。それは計画じゃないでしょう。そういうレベルを上げていただきたい。

○須藤 市外郭団体の定年制を徹底する。

○高木 大橋さんの市民協働情報センターとどの辺までかぶってくるのかわかりませんが、私は、意欲と志のある若者が武蔵野で一旗上げる活動の支援。

○田中 それは起業もボランティアも含めてですか。

○高木 起業だけじゃなくて、いろんな市民活動でもいいしというので、武蔵野にあるネットワークをやろうとしている人たちにつなげて、彼らももっといろんなことができるように。大分、協働情報センターとかぶっているかなと思いますけど、そんなのです。

○高橋 児童手当の大幅増額。

○田中 民間との人事交流の拡大と、あと政治任用制度を導入する。補足として、すかいら一くとかに10人くらい出向してもらえたら。

○長屋 きょうも起こりましたけれども、武蔵野市ではいじめはどうなっているのか、実態を知りたいんですけどね。武蔵野市ではいじめがゼロになるように、全くないとは思えないんですけども、相対的でもいいから、いじめゼロに向けた教育であり、家庭であり、あるいは社会というか、そういう環境づくり。いじめ対策、いじめ撲滅対策の確立。

○西村 地方分権が進んでいくと、市民自治ということがきちっと考えられるはずなんです。ちゃんとそうなるか、わからないですけど。その場合、まちである程度の額の予算を自分たちの計画に基づいて使えるような仕組みをつくってほしい。もうちょっと簡単な言い方があったと思うんですけど、今出てこないんです。市民自治である程度予算を任せられる。申請してだと思えますけど。まちで、というところがみそです。NPOではなく



て、まちで。

○藤本 今もいじめの問題が出ました。ほかの自治体で起こっている問題が市でも起こらないか、ちょっと心配です。その観点から、私は、施工業者の選定方法の透明化。やっていращやるのかもしれないんですけども、やっていただきたいと思います。

○菊池 指名入札か、それとも随意契約かという、そういうことでしょうか。

○藤本 要するに市民が納得できる基準で選んでいただければよろしいと。その納得できる基準を明らかにしていただきたい。

○松村 僕は市民会議の作文にこれを書いたんですけども、団塊世代の活用です。

○三上 ちょっと勝手なことを言うようになりますけれども、美術館の活用です。なぜもっとポップアートをやらないのかということです。武蔵野市にはガイナックスというプロダクションがあって、エヴァンゲリオンを大ヒットさせたのに、もうどっかに行っちゃいました。小金井に行っちゃいました。残念じゃないですか。

○宮本 今、アメリカで選挙があって、アメリカでは選挙のたびに候補者だけに投票するんじゃないで、住民投票的にプロポジション何とかという方法で投票はあります。住民投票すると、市長選挙は5000万かかるというのですけれども、そういうのに相乗せして、たまたま市長選挙と議会選挙は2年でひっくり返るようになりましたので、そのときにうまく住民の意思を問うシステムを確立していただきたい。

○安田 組織図を見て、課制の廃止。グループ制に移行。

○糸井 市民参加方式の市民サイドの人選決定化。

○澤田 ついていけてません。(注・パソコン) ちょっと收拾がつかなくなりつつあると思うんですけど。どこかでまとめないですか。

○菊池 澤田さんはないですか。2巡目なんですけど。

○澤田 私は、投票システムの確立ですね。直接住民の、というやつですね。これに一応1票。市民全員アンケートという形にしちゃっていいですか。

○大橋 それは別項目にしたらどうですか。

○澤田 投票システムだから、違いますね。

○糸井 枯渇するまでどんどん回しましょうよ。せっかくブレストでやろうと言ったんだから。

○菊池 糸井さん、それでよろしいかと思うんですけども、下へ下へと伸びているんですけども、例えば上にこういう議論があるけれども、そこに自分はこれをくっつけたい

とか、そういう提案をどんどん出していただくといいんじゃないかと思うんです。お願いします。

○糸井 市民参加方式の市民サイドの人選決定化。市民が委員を決めるんですよ。ここみたいに行政で決めるんじゃないで。

○内山 行政の部課長と委員会構成のクォーター制度の導入なんていうのは、ほど遠いでしょうかね。

○糸井 いいですよ、どんどん。

○澤田 ちょっとよく聞こえなかったんですけども、もう一度言っていただけますか。

○内山 行政の管理職と委員会へのクォーター制度の導入。今、部課長に女性がいないと聞いていて、本当なのかなと思っているんですけど。

○大橋 市民からの政策立案・評価システム。目標 10%。

○小美濃 老人対策重点から子育て重点にシフトする。若い人、現役世代に市の対策をシフト。

○小池 出資団体と補助団体の徹底的な見直し。

○小島 各事業の損益計算の徹底。

○酒井 さっき、市役所の課の廃止と出ているんですけども、私は各課の配置場所の見直し。

○安田 さっき言ったのは課制の廃止で、グループ制の導入。

○酒井 よくわからないので、一緒にしてください。どっちにしても、組織の体制を変えて活性化するというか、もっと効率よく行政をしてほしいという意味で同じだと思うので。

○島田 今まで市が持っているいろいろな計画、特に平成以前に持っている計画等の見直し。端的にいったら、道路計画とか緑地を買い上げるとか、いろんな計画がありますよね。そういうものはもう一度今の時点で見直されたらどうでしょうか。

○須藤 数値は希望的数値でなく、一番最悪の数値を設定すること。

○高木 先ほども行政評価というのがあったんですけども、行政評価の方法として、行政の側で行政評価するのではなくて、一番使う人、例えば学校の校舎であれば子どもと親が評価する、そういうシステムにする。

○高橋 行政の方による出張説明というんですかね、定期的な出張説明。

○田中 29 行の先ほど私が言ったところで、「民間との人事交流」、「人事」を入れてください。それと、その後に「政治任用」を入れていただきたいのと、新しい意見が、資金調

達方法の多様化。括弧して「市民債等」と書いてください。

○長屋 いろいろあるんですが、実は心の東京革命行動プランって、慎太郎さんがつくったんじゃないかと思うんで。この中に、これ、書きちゃうと大変なことになるんだけど、非常にいいことを言っているんで、これをぜひ……。

子どもに関係あるんですけれども、7つほどあります。これは私、社会福祉協議会かなんかのところで話したら、市内ですよ、拍手を受けましたがね。毎日きちんとあいさつさせよ、他人の子どもを叱ろう、子どもに手伝いをさせよう、ねだる子どもに我慢をさせよう、先人や目上の人を敬う心を育てよう、体験の中で子どもを鍛えよう、子どもにその日のことを話させよう、まあいろいろあると思いますけれども、こういう、何といたらいかな、イズムみたいなものを育てる仕組みをつくったらどうかなと思います。

○西村 自治基本条例のところに、「住民投票制度」を言葉としてくっつけておいてほしいです。さっき、どなたかがおっしゃった直接投票制度もその意味だったんですかね。どうかな。わからないんだけど。

○糸井 いいんですよ、だれが何と言ったって。自分の意見を言えば。

○西村 住民投票制度を自治基本条例の横にくっつけてください。

○藤本 さっきも他の自治体で起こっている問題が市でも起こっていないのかということで発言しましたが、その続きとしまして、あとちょっとありますのが、公務員の特勤手当の内容、この辺の検査をする必要があるだろうと。会計検査院がいろいろ問題を提起しています。

それから、アスベスト校舎、武蔵野市にはそういう問題はないのかどうか。例えば建てかえのときにどういうことが起こるのか、その辺もはっきりさせていただきたいなど。

これらは他のところで起こっているんで、当市もそういうことがないということをはっきりさせていただきたいという趣旨です。まずは開示というか、だれかがちゃんとチェックするという事です。

○松村 地域福祉のワンストップサービス化を実現されてほしいと思います。高齢者も含めて、特に地域福祉がテーマだと思います。

○三上 コンピュータ化によって窓口業務を簡素化する。例えば市民が自分で操作して必要な情報を安価に取り出せるようにする、そういうシステムにしてほしい。

○宮本 さっきの松村さんの団塊のところに追加で1票というか、もう1つ加えて、定年した人も有効に活用するように。団塊の人はいずれ定年に入りますから、そういう人たち

をうまく活用するシステムというか、市役所がやるんだか、我々が自発的にやるのかは問題なんですけど、とりあえずそういう意味です。

○安田 給与体系で管理職以上の年俸制の導入。要するに賞与から何から全部一緒にして年俸制にする。退職金もみんな含んで。

○菊池 最後に、澤田さん。

○澤田 私はもうアイデアが尽きました。

○菊池 これで大体8時回っているんです。それで、このままずっと下へ連なっていくのか、もうちょっと工夫して、ブレインストーミングはいいんですが、何かこの辺で考えた方がいいと思うんですけども、どうでしょうか。

○安田 ブレインストーミングを今回と次の回とか、その先に整理するとか、スケジュールがわかっているれば判断しやすい。そっちをあれしたら。1月くらいからまとめに入る、12月までは自由にさせるとか、その辺の、大ざっぱでもいいから。これで締めると、この中でだんだん話が狭くなる。

○糸井 ブレストは途中でやめるのが一番まずいですよね。アイデアが中途半端になるでしょう。アイデアが中途半端になるということは、まとめが中途半端になるということでしょう。

○菊池 ですから、私が言いたかったのは、今の安田さんのご意見が出たんですけども、こういうことなんですよ。ブレインストーミングはアイデアが出尽くすまでやるのか、それとも逆算して行って、どこまでやりましょうとか、そういうこともある程度考えていかなければいけないので、出尽くすまでやるんだということをやると、とても時間が間に合わない。

○糸井 このペースだったら、あと2～3回で終わりますよ。説明は要らないですよ。どんどんパスをすればいいですよ。あーとかえーとか言うんだったら、パスですよ、それは。だから、事前に自分でメモして、言葉で言わなきゃだめなのよ。

○内山 3回目はすごく早くなりました。慣れてきたから。

○糸井 慣れてくるから、早くなるのよ。とりあえず枯渇するまでやってみましょうよ。あと3回すれば枯渇するから、大体。

○長屋 賛成。やりましょう、やりましょう。

○菊池 では、続けていきましょう。どうぞ。

○糸井 シビルミニマムの市政化。

- 内山 既存資源の活用で、子育て世代の住宅支援を。
- 大橋 職員採用試験の実費徴収。コスト削減ということです。受験料ということです。
- 小美濃 学校等市営施設の活用。
- 小池 国際交流、ハバロフスクとかルーマニアだとか、今いろいろ交流をやっていますが、果たしてあれがどこまで必要なのかというのを前から疑念を持っているので、その辺を見直していただきたい。
- 小島 武蔵野市が唯一他の市に比べてオンリーワンとして持っているすばらしいものは何かを考える。強みですね。
- 酒井 さっきの行政の課の廃止というところ、さっきのを入れてほしいということと、新たな意見としては、三鷹武蔵野ケーブルテレビの後期高齢者世帯全戸設置。
- 島田 駅前に保育園の設置。
- 須藤 パスします。
- 高木 まちレベルの住民自治組織の本格的検討。町内会をつくろうじゃなくて、コミセンとか地域社協とか、そういうまちの自治組織の仕組みの再検討。
- 高橋 乳幼児期から義務教育期の児童の完全無料化。医療、教育、すべて。子育ての完全無料化。
- 田中 学校選択制の導入。
- 長屋 教育から環境に移りまして、ムーブスの廃止あるいは少なくとも200円、またはあれだけサービスを、家の近くまで来てもらえるわけだから、300円以上にしてもいいと思います。いずれにしても、できたら環境問題等からいって、ムーブスの廃止。悪くとも値上げ、一歩下がって値上げです。
- 西村 市の所有地、土地開発公社の土地も含めての総点検と利用計画の検討。
- 藤本 市が最小限やらなきゃいけないことというのは、市民の安全。ですから、防犯、そして防災、これが最優先ではないか。その中で特に私が今気にしているのは、北町を中心とする浸水、あれを何とか早く解決していただきたい。8000万かけて応急措置はできているんですけども、まだ危ないそうです。
- 松村 受益者負担、利用料・使用料の見直し。これは値上げという意味じゃなくて、公平性の問題として検討したいと思います。
- 三上 パスします。
- 宮本 給与のところですけども、すぐできる提案、職員の勤勉手当の廃止。平成 16

年度 1.15 カ月分。私の場合には皆勤手当というのは一切ありませんでした。それに相当するものです。すぐできる提案です、直ちに。

○安田 定期預金と借入金両建て廃止というのか、見直しというんですかね。借入金の半分、定期預金ですよ。

○糸井 住民税 2% の市民配分制度の導入。

○内山 市民政策室の設置。

○大橋 武蔵野人物図鑑の創設。

○小美濃 吉祥寺等の固定資産税が高いので、特に商業地の固定資産税の値下げというのか、評価見直し。

○小池 パスします。

○小島 市の所有する資産を再評価する。どこでもそうですが、資産が肥大化して余裕があるように見えていますが、企業もどこでもそうですが、肥大化が将来に一番問題を残します。資産の再評価。

○酒井 職員の職場環境の見直し及び改善。

○澤田 さっき出てました。

○酒井 済みません。じゃ、フレックスタイムまたはシフト制の導入。

○澤田 さっき私は言っていませんでしたので、言わせてください。市保有施設の統廃合。

○島田 それにも関連するんですけれども、市の持っている資産の最大限の有効活用。もう少しプラスを生み出す方法を考えることができないかというような意味で。芸能劇場とかいろんなのがあるじゃないですか。

○須藤 パスします。

○高木 市民政策室とどこまでダブっているかわからないですけれども、市民向けの市政資料室。それは秘書みたいな人も含めて、どういう資料が欲しいというのを取ってきてくれる人を含めた市政資料室の完備。

○高橋 積立金制度の導入。余った予算をきちんと積み立てておけるようにということです。

○田中 事務管理部門のシェアード化。

○長屋 これも財源を確保するために。市議員の数を 20 名くらいにさせていただく。削減。今、30 人ですよ。人口比では非常に高い。多過ぎます。調布なんかと比べたら、全然多いです。

- 小池 この間、削減が通りましたよ。
- 長屋 何人になりましたか。
- 小池 具体的にはこれからですけど、削減ということで。
- 西村 豪華な建物の一点主義よりも身近なところに普通の建物をというふうに、基本方針をシフトしたい。
- 藤本 パスします。
- 松村 具体的に旧中央図書館とか自転車集積場といったところの土地の有効利用。
- 三上 パスします。
- 宮本 屋上緑化の推進。
- 安田 休日開庁、それから窓口の開設時間の延長、これの即時実施ですね。
- 糸井 省エネ、節エネの徹底行動化。
- 内山 企画部に自治体法務の専門家を。
- 大橋 選択と集中の行政投資。
- 小美濃 策定委員会に実務者を1割入れる。学者じゃなくて実務者を。
- 小池 吉祥寺駅を中心とした商業地域の駐輪・駐車問題の抜本的な対策。
- 小島 各事業の実績を明らかにして、働く人に対する報酬に成果主義を入れて、賞与と評価に差をはっきりさせる。
- 酒井 今、計画されている武蔵野プレイスという大きな建物があるんですけども、そこを市役所にして、現市役所の建物を市民の活動センターにする。補足はいろいろあるんですけども、言わないということで。
- 澤田 海外都市との市職員の交流。
- 島田 収入アップのために、農地の活用状態の見直し。チェック。今、農地は税金が安いと聞いておりますけれども、本当にそういうふうに活用されていますかということです。
- 須藤 パスします。
- 高木 三鷹駅北口の駐輪場用地の本格的活用に向けた市民討議。
- 高橋 吉祥寺駅の商店街の地下化。地下にも商店街をつくろうと。
- 田中 近隣市区との合併を意図しない連携の強化。
- 長屋 路上喫煙の罰金化。
- 西村 世田谷のまちづくり公社と同じでなくていいのですが、市民の活動への専門家の派遣のシステム化。

- 藤本 パスします。
- 松村 高齢者の給食配食システムの確立。
- 三上 パスです。
- 宮本 いろんな策定委員会から答申が出て、実行されちゃうわけですけれども、必ず複数案を提案していただいて、最終的決定は市民の意思に任せるということを導入していただきたいと思います。例えば、どこか豪華な学校ができちゃったというんじゃなくて、できる前にA、B、C案を出して、それで選択してもらう。

マルチプルチョイスというか、A案、B案、C案から、例えば100円コース、70円コース、50円コースで学校をつくります、さあ、どうしましょうというのを市民に選んでもらって、行政が選ぶんじゃないという意味です。
- 安田 決算の早期化。決算が遅過ぎる。
- 糸井 ISO14000シリーズの外郭団体への導入。
- 内山 市民参加としてなんですが、子ども議会、子ども会議の設置。子どもの意見表明権ということの意味なんですけど。
- 大橋 ネーミングはちょっとわからないですけど、NPO活動支援法とか、そういうものの創設。法律じゃないかもしれないですけど。
- 小美濃 パスします。
- 小池 私もパスします。
- 小島 行政の受け身体質を徹底的に直すプランを考える。意識改革みたいなものですけど。
- 酒井 さっき出ていたんですけど、吉祥寺の駐輪場に関連して、吉祥寺のロンロンの屋上を駐輪場に。地下でもいいんですけど。
- 島田 ちょっと異質になるんですけど、北町のはずれと言いますか、武蔵野のはずれの方に地下鉄の導入。今、中央線が主なんで、それだけではどうも不便です。
- 須藤 復活します。市の大物の建物を建てた場合は、命名権を与えて収益を得る。
- 高木 職員の成果主義というか、評価の中に、市民との協働をどのくらいしたのかということも項目にちゃんと加える。
- 高橋 小学生とか中学生に読み書きそろばんというのを、武蔵野はきちんと教えられる市であってほしいなと思うので、読み書きそろばんに詳しいリタイアした方々を学校に派遣して、徹底的に子どもたちを鍛えるような制度を導入してもらえないかなと。



- 田中 先ほどの北町地下鉄のところに私も1票というか、LRTの導入というのと、若い世代の定住促進税制。税金の優遇策をつくる。
- 長屋 監査委員に民間人の登用。
- 西村 とりあえずパスします。後で復活します。
- 藤本 パスです。
- 松村 パスです。
- 三上 パスです。
- 宮本 パスです。
- 安田 CPAの導入。公認会計士の監査を受けなさいということ。
- 西村 忘れたのを思い出したので、言います。今回は第四期長計の調整計画だからしょうがないのですが、次の基本計画のときにはもっと市民の言葉でわかりやすい文章で、それが市民参加を促すことになると思います。
- 糸井 市の関連事業所のエコアクションの環境経営の推進化。市の関連事業所の環境経営の導入。
- 内山 1つ前の松村さんの福祉のワンストップサービスのところなんですけど、多分ハード面のことばかりではないと思うので、私は市民との協働ということで、福祉コンシェルジュのような、仮称ですけど、そういう人の育成というのもワンストップサービスにつながるのではないかと思いますので、プラスしてください。
- 大橋 ホームページの広告収入。
- 小美濃 提案ではありませんけど、先ほど先生がまとめられたのを、次回で結構ですから、いただきたいと思います。
- 小島 時間がちょうどよろしいのではないのでしょうか。
- 菊池 途中ですが、いきますか。あと5分しかないんですけども。パスされている方が随分いらっしゃるんですけども、まだいらっしゃれば、どうぞ。いずれにしても、最後の人までいかないと不公平でしょう。ですから、どうぞ、ある方、おっしゃってください。
- 島田 建築基準法の見直し、容積率のアップ。緑地をつくりたい。
- 菊池 建築基準法というより、建築条例でしょうね。これ、国の法律ですから、市だけで変えるわけにはいきませんから。
- 須藤 パス。

○高木 パス。

○高橋 パス。

○田中 企業のCSR活動の受け皿となる組織をつくる。CSRとは社会的責任です。

○長屋 もうやっておられるかもしれませんが、市職員のマイバッグ持参義務と食堂で割りばし使用禁止。

○西村 市役所の中の仕事によっては専門家が必要だと思います。平たくいうと、例えば福祉だとか図書館だとか、専門職が必要なところには専門職を置く。とりあえずそれだけにしておきます。

○安田 行政の最高意思決定機関を設置する。

○菊池 これで時間がちょうど来てしまったんですけども、125件出ております。次回どうしましょうかということなんですけれども、この中で、まずみんなで考えなければいけないのは、関連の他の市民会議が取り扱うべき事項がかなり入っています。そこをチェックして外していかなきゃならない。あるいは、単に外すんじゃなくて、どこか別なところへ、行政と財政のところへ入り込めるかどうか、その作業をやっていく必要がまず第1点だと思いますね。我々の行・財政のところを集約していく必要があると思います。あるいは、こことここはつながるねという作業があるかと思います。

そういうことで次回やらざるを得ないのかなという気がするんですけども、どうでしょう、そこで、きょうの全体のこれをコピーして皆さんにインターネットかなんかで流していただいて、それぞれ作業していただく。

○澤田 プリンターを用意してあるんですけど。そっちの方がよろしければ。

○糸井 プリンターを持ってきたなら、今、印刷して配ってもらった方がいいんじゃないですか。

○菊池 メールでもってやりとりが不可能な方もいらっしゃるので、その方にハードコピーをして、ファクスか何かでやることになろうかと思うんですけども、そんな形でよろしいでしょうか。——はい、わかりました。

○田中 追加提案ですけども、これ、皆さんにご負担がかかることなので、反対だったらいいですけども、今日やったことを次回分類していく作業だと思うんですけども、ただ今日やっていたことというのは、実は何のことかわからないものがいっぱいあると思うんですね。ですので、ご自分が言ったことを1行くらいで書き込む作業を行っていただけないかなと思うんですけども、いかがでしょうか。口頭で説明するとお1人5分くら

いかかっちゃうんですね。なので、それを1行で書いていただければと思うんですが、いかがでしょうか。何のことも、見てわからないものがいっぱいあると思うんですね。

○澤田 それで、1つなんですけど、これ、いろんな次元のものが入っていて、かなり具体的なものも入っているし、かなり大きな枠のものが入っているんで、せめて大中小くらい、できなきゃ大中でいいんですけど、あるいは中小でもいいんですけど、自分で発言した部分については、それをどこかの項目に入れていただくという形にすれば、かなり整理ができる。

○高木 それを先生はみんながそれぞれに整理を試みようではないかとおっしゃっていて、その過程の中で、こいつらは何言っているかわからないから、ちゃんとというようなことがメール上でやりとりができれば、相当処理できるんですけどね。

○澤田 メールを持ってない方もいらっしゃるんで、ここでやるしかないと思います。

○高木 何人かだから、ファクスというのもおっしゃっていたから、やれるだけのことをやってみませんか。

○菊池 それしかないですね。

○内山 今おっしゃっていたように、自分たちで分類分けとか、大中小項目に自己申告するとか、補足するとかいうことで、一たん中間で事務局に返した上でないと、分類がちょっと違っていただ、この意味は、みたいになると思うんですよ。一たん中間で返して、また再度流していただくということをしないと、いけないんじゃないかなと思うんですけど。あと2週間くらいですけど。

○高木 中間で返したって、事務局の作業になっちゃうだけだから、それは意味ないでしょう。それぞれが自分たちの意見を出し合って、一番合理的な整理をした人のものが光るというだけのことだよ。

○安田 何をするんですか。理由を書くのか、何を書くわけ？

○糸井 分類をして、わかりにくいやつを解説をするということを全員がやるということの流れなんですけれども、けど僕はこれを全員で整理したって、結局はまとまらないと思いますよ、全員でやったら。むしろこれのまとめは行政がやってくれていいんじゃないの、名古屋さん。

○名古屋財政課長 私どもでやると、行政の目でやってしまってますね……。

○糸井 だって、こんなのは、考え方じゃないんだもの。整理する技術だから、大中小で分けたりとかすればいいんですよ。

○澤田 技術だったら、私がやりますよ。やっぱり市にやらせるのはおかしいんで、だれもいないなら、私がまたやればいいんでしょう。

○酒井 やらせてくださいという言い方がいいんじゃない。

○澤田 やらせてください。

○高木 慣れてる人がやれば。

○酒井 というか、高木さんがおっしゃったように、自分たちで出した意見を行政でやってもらったら、またそれが違っちゃうから。

○糸井 僕もブレインストーミングというのは随分やりましたけど、本来このくらいの人数であれば、1000くらい出さないと、案が出てこないんですね。ブレインストーミングというのは、パッパッパと頭の中にあるやつを今出したくらいですから、詰まったときに絞り込んで考えたときに、自分がはっと思うようなことが出るので、本来そこまで回さないと、いいアイデアというのは出てこないですよ。

提案なんですけれども、今回は、ブレインライティングという、ブレインストーミングの応用なんですけれども、お名前を書いて、その人がテーマを決めて、そしてそれに対してアイデアをボンボン出すんですよ。言葉でちゃんと、まとまった言葉で。それを回収すれば、30分で終わりますよ。まとめは時間がかかりますけどね。

○安田 それはみんなに配るわけ？

○糸井 そう。それで、3分なり5分なりで回すんですよ。3回なり4回なり。本当は全員に回すんですけどね。

○澤田 とりあえず、これをまとめて、ちょっと整理して、それを一回見て、さらにある人はまた出す。（「賛成」「そうしましょう」と呼ぶ者あり）

○長屋 ちょっと言葉足らずなんで、「増収」というのは何でしたっけ。これ、みんなに配るときに。「増収策を考える」ですね。

それから、私が「心の東京革命」と言ったところ、教育だけになっているんですが、そこをちょっと補完してほしいんですけどね。「心の東京革命」の見直し、教育が……。

○澤田 その辺はメールでやりませんか。

○長屋 メール、メールと言うけど、メールってそんな簡単なものじゃないよ。

○内山 補足したくなることって、いっぱいほかにもあると思うので、一たん補足したものを返して、それで皆さんでやりとりするというふうにしなないと。

○澤田 その補足っていうの、僕はくせものだと思うんですね。皆さん、長く書いちゃう

と、補足がまた爆発しちゃって。明らかに私の技術的な未熟さがあってわからないというところはちゃんと直していただくのと、短い言葉で適切に概念を説明できるような形にしないと、説明ばかりになっちゃうんです。

○小島 これはどこかで決断して任せた方がいいんじゃないですか、やる人に。

○酒井 でも、これをやったことがない人もたくさんいるわけだから、初の試みなので、したことがある方はもちろんわかっているけれども、わからない人もいるわけだから、とりあえずこれをバーッと見て、百何個出たものを自分で眺めてみれば、何となく、こういう感じなのかな、みんなの意見はと、それは皆さんの中であると思うので、私はそれでもいいと思うのです。

○澤田 次回議論するときには原案がないと、皆さんが一斉に平等にやっちゃうとあれなので、とりあえず来週つくってきて。

○長屋 さっき、糸井さんがちょっとおっしゃられたかもしれんけど、全部が生きているわけじゃないんですよ。ですから、これ、まだブレインストーミングで終わってないので、今日はこれを、さっきの財政とかなんか、ああいう言い足りないのは補完して、皆さんでコピーで家に持って帰って、自分の意見をまとめるなり、あるいはこれは何だろうと疑問を持ったりして持ち寄って、次回はトップの10項目ずつくらいを挙げて、それについてお互いにディスカッションして。10グループずつくらいに分けてディスカッションして行って、それぞれの案のアセスメントじゃないけれども、評価というか何というか、納得であり、これは早くやらなきゃいかぬなということをそれなりに位置づけていったらどうですかね。

○小島 私は、菊池先生と澤田さんにお任せしたいと思います。2人で打ち合わせしてやっていただければ、何にも心配はありません。（「私も賛成」と呼ぶ者あり）

○西村 今の方の意見と近くてちょっと遠いんですけど、澤田さんにご苦労かけるときに、もし何でしたら一緒にやってもいい人を2～3人募って、それでやっていただければ一番いいと思うのです。一緒にやってもいいという方がいたら、手間はありますけどね、時間を合わせたりとか。数人でやれば一番理想的ではないかと思います。

その前に、短い、何字以内でもいいんですけど、補足した人は、全部来たところで一度出すというのをやった方がいいかもしれませんね。ちょっと大変ですけども、それをやってくださるんだったらば、そこまでやってから次回に入るとかなり楽かな。

○高木 それは集まるのが大変だから、メール上でやったらどうですかと言っているんで

す。あなたが整理なさったものについて、僕はこういう意見がありますよということをメール上で意見を交換した方が、ずっと省力になる。また別に人が集まるんですか。

○西村 ここは澤田さんのご判断ですね。

○澤田 私は原案をつくるだけであって、そのたたき台なんですね。別にこれがどうこうと言うわけではなくて、皆さんは皆さんで持ち寄って考えて。たたき台がないところで話すと発散しちゃうんで、そのたたき台を詰める、そういうことなんで。

○高木 事前にメール上に澤田さんの整理が載った方が……。

○宮本 私、メールがありませんので、一任という言い方は失礼ですけれども、お任せ。メールがある方同士でやっていただいて、私は構いません。

○澤田 私がつくって、菊池先生に見ていただいて、それを原案にする。

○高木 それでいいんですよ。

○菊池 私も私なりにやってみて、皆さんに流します。それでいろいろありましたら、往復運動したいと思います。それで、とにかく原案をつくりましょう。

前回のもここに織りませるということでいいんですか。せっかくですから、そうしましょう。

○澤田 今は3段階か4段階の階級づけをするという段階でよろしいんですね、次にやることは。

○菊池 大項目、中項目、小項目くらいに分けてね。それとあとは、この議論に入っていないだろうと思われるものをちょっとわきに置いておく、それをやりましょう。

では、済みません、10分ほど超過いたしましたけれども、そういうことで。

### 3 その他

○菊池 最後に事務局の方から何かございましたら。

○名古屋財政課長 3点ございまして、まず1点目は、前回、西村さんから、公会堂の建てかえがなぜ長期計画にないのかということで、市有施設の維持更新計画は、長期計画、行財政集中改革プランにも、19年度をめどに策定するということが予定しておりまして、公会堂の建てかえについても、昭和38年に建てられて42年を経過しておりますので、今後10年から15年くらいの間には建てかえが必要というふうに考えられますので、更新計画の中ではっきり位置づけるという予定でございます。

次に、もう1点は、きょう皆さんのところにお配りした日程調整表、1月と2月と3月

の分、またこれに記入をお願いします。メールをお持ちの方は、今日か明日、同じものをメールでお送りしますので、またメール上で返していただければと思います。メールがない方はこちらの方にご記入いただいて、ファクシミリで返送していただければと思います。これは今週中、金曜日までをお願いいたします。

最後なんですが、きょうも第4回の市民会議の議事録をお配りしております。またご自分のところのご発言で、ちょっとこういう言い回しではなかったとか、気になる点とかありましたら、これも今週中に財政課の方にご連絡をいただきたいと存じます。議事録についても、それが終了後、来週また公開という予定でございます。

以上です。

○菊池 それでは、ちょっと時間をオーバーしましたがけれども、きょうの会議は終わらせていただきます。ありがとうございました。

午後9時13分 閉会